



Ⅵ. コミュニティ・ネットワーク形成支援

大学教育に関する改革や改善の取り組みは、情報戦とも言われるほど、国内外の新しい施策や学術的な動向、それに伴う他の大学や学部の実践的な取り組みを情報収集する必要があります。その上で、必要な事項を、京都大学全体や部局の教育改革・改善の取り組みに反映させなければなりません。

本センターでは、このような情報収集の機会、そこからコミュニティ、ネットワーク形成をはかるべく、「あさがおメーリングリスト」「大学教育研究フォーラム」「大学生研究フォーラム」の3つのシステムを構築しています。

1. あさがおメーリングリスト <http://kyoto-u.s-coop.net/asagao/>

本センターが、2003年より15年にわたって提供しているサービスです。

- メーリングリストアーカイブ(検索機能付き)
- メール投稿フォーム
- ユーザー登録・登録解除フォーム
- メールアドレス変更フォーム

以上の4つの機能からなり、本センターや京都大学からの高等教育に関する案内が全国の関係者に配信されます。登録ユーザーからも、高等教育に関する各種イベント等の案内が配信されるので、全国の主だったイベントや今のような施策や取り組みに全国の関心が向けられているかを、このメーリングリストを通して把握することができます。

2018年1月現在で、ユーザー登録数は4,836名(2015年3,429名、2016年4,192名)であり、投稿・配信数は年々増加傾向にあります(2015年621件、2016年944件、2017年975件)。全国の高等教育改革や改善に関わる多くの関係者は、あさがおメーリングリストに登録しています。

2. 大学教育研究フォーラム

(1) 大学教育研究フォーラムとは

本センターが1994年の設立以来20年以上にわたってなされている、大学教育改革や改善に関する施策や実践が報告される国内最大級のフォーラムです。2017年度で第24回を迎えます。

大学教育研究フォーラムは、①特別講演、②シンポジウム、③学術セミナー、④個人研究発表(口頭発表・ポスター発表)、⑤参加者企画セッション、を基本プログラムとして、年によって様々なプログラム追加します。

(2) 第23回大学教育研究フォーラム(2017年3月19-20日)の開催

2018年1月現在、2017年度のフォーラムはまだ開催されておりませんので、ここでは2016年度の実績をご報告致します。2016年度は、以下のプログラムで開催し(敬称略)、計807名の方が参加しました。

①特別講演

新井 紀子(国立情報学研究所社会共有知研究センター長)

「人工知能が大学入試を突破する時代、人は何をすべきか？」

②シンポジウム「アセスメント・イン・アクションー評価の新しい形ー」

報告者1 土井 隆雄(京都大学宇宙総合学ユニット特定教授)

「有人宇宙活動のための人材育成について」

報告者2 平田 オリザ(東京藝術大学COI 研究推進機構特任教授)

「知識の量を量る試験から、学ぶ仲間を選ぶ試験へ」

報告者3 錦織 宏(京都大学医学教育推進センター准教授)

「医学教育における学生・研修医の評価」



大学教育研究フォーラム2016の様子

③MOSTフェロー発表会「モストDE データー異分野コラボレーションによる共同的授業実践の創発ー」

本センターでは、特徴ある授業実践を行っている全国の大学教員が参加するMOSTフェローシッププログラムを、2012年より実施してきました。MOSTフェローは、対面やオンラインで交流しながら、1年間かけてそれぞれの授業改善に取り組み、授業実践の中で直面する様々な教育的課題を相互の実践知から解決する大学教員の情報共有コミュニティを目指して活動しています。

当日は、異分野コラボレーションによる共同的授業を実践された先生方の事例を楽しく紹介することで、このような「新しいFDモデル」の可能性をみなさんと考えました。

報告者 矢野 浩二郎(大阪工業大学情報科学部准教授/第3期MOSTフェロー)

村上 裕美(関西外国語大学短期大学部准教授/第1期MOSTフェロー)

坂田 信裕(獨協医科大学基本医学情報教育部門教授・情報基盤センター長/第2期MOSTフェロー)

道幸 俊也(関東学院大学法学部法学科助教/第4期MOSTフェロー)

渡邊 美智留(横浜薬科大学臨床薬学科准教授/第4期MOSTフェロー)

森田 泰暢(九州産業大学経済学部経済学科准教授/第5期MOSTフェロー)

司 会 木村 修平(立命館大学生命科学部生命情報学科准教授/第1期MOSTフェロー)

勝又 あずさ(成城大学キャリアセンター特別任用准教授/第1期MOSTフェロー)

企画協力 長田 尚子(立命館大学共通教育推進機構准教授/第1期MOSTフェロー)

④学術セミナー:

- 1 深堀 聡子(国立教育政策研究所高等教育研究部長)

「学問分野別学修成果アセスメントから学位プログラム設計へーエキスパート・ジャッジメントによる共通性と多様性の両立ー」

- 2 浅野 茂(山形大学学術研究院教授)

「米国におけるIR/IEの最新動向と日本への示唆」

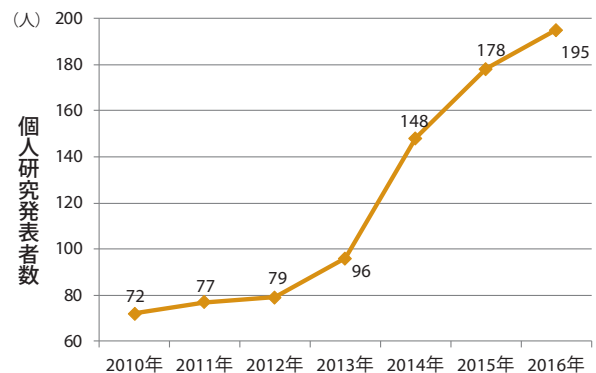
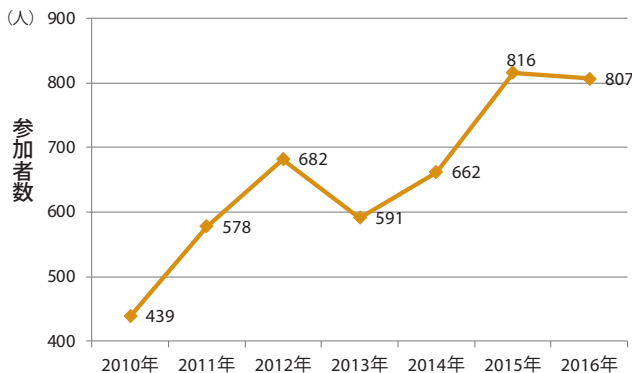
⑤参加者企画セッション(計14件) ※2015年度は11件

ある特定のテーマでの研究・実践交流を促す目的で、一般参加者から募集するセッションとなっています。2016年度では「学生のノートテイキングから授業のあり方を考える」「小規模大学におけるIR」「アクティブラーニングの評価のフロンティア」など。

⑥個人研究発表(口頭発表・ポスター発表)(計195件) ※2015年度は174件

(3) 成果と課題

この5年フォーラムへの参加者数、個人研究発表者数はほぼ増加傾向にあります。2016年度の個人研究発表への申込者数は195件であり、2015年度からさらに増加しています。



参加者数・個人研究発表者数の増減(2010-2016年)

2. 大学生研究フォーラム

(1) 大学生研究フォーラムとは

年に1回、京都大学高等教育研究開発推進センター、東京大学大学総合教育研究センター、公益財団法人電通育英会とが三者共同で行っているフォーラムです。

近年の大学教育は、もはや単なる知識を教授する場だけでなく、学校から仕事・社会へのトランジションを課題として、資質・能力も併せて学生を育てる場として期待されるようになってきました。大学生研究フォーラムは、現代大学生の姿を、調査結果を見ながら、また企業・社会の関係者の声を聞きながら議論する場です。

(2) 大学生研究フォーラム2017(2017年8月25日)の開催

最終回を迎えた2017年度のフォーラムでは、「10年目を迎えた大学生研究フォーラム」というテーマで、百周年時計台記念館にて開催されました。アクティブラーニング、キャリア教育、学校から仕事・社会へのトランジションをテーマとして、高校・大学・企業を繋いだこのフォーラムの軌跡をまとめつつ、最先端の現場報告も加味して、これからの10年を展望しました。

① 講演

溝上 慎一(京都大学高等教育研究開発推進センター教授)

「10年間の大学生研究を振り返って」

② 高校・大学、企業からの報告

今後の10年の課題を以下3つの連携から考えました。

● 企業との連携

松高 政(京都産業大学准教授)／岩佐 峰之(京都市立西京高校主幹教諭)

● 学びとキャリアの連携

石山 恒貴(法政大学大学院教授)／今村 久美子(認定NPO法人カタリバ代表理事)

● 地域との連携

片峰 茂(長崎大学学長)／中村 怜詞(島根県立隠岐島前高校教諭)

③ パネルディスカッション

パネリスト 中原 淳(東京大学准教授)／松下 佳代(京都大学教授)／児美川 孝一郎(法政大学教授)

(3) 成果

350名定員のなか、当日は334名の方にご参加をいただきました。ほぼ期待どおりの参加者数でした。講演録(ダイジェスト)は、電通育英会の機関誌『IKUEI NEWS』に掲載されています。

<http://www.dentsu-ikueikai.or.jp/transmission/forum/archive/>

(溝上 慎一)